

令和元年度 第2回みんなで支える森林づくり松本地域会議

開催日時 令和元年11月25日(月)午後1時30分～午後4時30分

開催場所 松本合同庁舎202号会議室

出席委員 赤羽委員(松筑木材協同組合理事長)
太田委員(塩尻商工会議所中小企業相談所)
清沢委員(朝日村産業振興課長)
佐藤委員(座長、森林環境教育研究室室長)
高橋委員(横山木材株式会社)
田村委員(自然エネルギー信州ネット理事)
増田委員(松本広域森林組合代表理事専務)

事務局 小野松本地域振興局長
加藤林務課長
小日向課長補佐兼林務係長
福嶋課長補佐兼林産係長
芳沢副参事兼課長補佐兼普及係長
太目主任森林経営専門技術員

会議事項

- (1) 令和元年度森林税活用事業の実績について
- (2) 令和2年度森林税活用事業の予定について
- (3) その他
- (4) 現地見学 松本市 高速道路沿線：四賀(観光地等魅力向上森林景観整備事業)

<委員からの意見等>

- (1) 令和元年度森林税活用事業の実績について

(佐藤座長) 学校林等利活用促進事業について、学校林を県では把握しているのですか。どのくらいの学校が学校林を持っているのですか。

(芳沢補佐) 調査を実施していますが、今、手元に資料がないため即答できません。

(佐藤座長) 今は小中学生が山に入ったりする機会が無いような気がする。

(芳沢補佐) アンケート等の回答を見ると、木が大きくなりすぎて、子供たちが手入れをすることが難しいという回答をいただいています。

(佐藤座長) 学校は学校林を持っているのですか。

(芳沢補佐) 全ての学校が持っているわけではありません。

お返ししてしまったという学校もアンケートの中にはありました。

(佐藤座長) 美鈴湖の上にある深志の森について、今はどうなっているのですか。

(福嶋補佐) 深志の森については、4～5年前までは松本深志高校の1年生が来て、手入れをしていましたが、木がだんだん大きくなり、学生では間伐等が手に負えない状況で、現在は林務課で管理をしています。

今後について、どうしていくのか深志の森の方で検討しています。

(佐藤座長) 子供さんたちに山の实地見学のようなことをさしていただくと良いと思う。

子供の時から、山はこういう風になっているということ、見させてやるのも一つの手だと思います。

是非、手入れということだけでなく、学校林を持っていらっしゃる学校がありましたら、山へ子供さんたちを出来るだけ入れていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(増田委員) 全体的に未着手の事業が結構あるようだが、全体の進捗はどのような感じですか。

(加藤課長) 遅れ気味というところはあります。

内示が遅かったとか、市村の担当者が変わり戸惑っているとか、いろいろな要因で、若干遅れ気味ではありますが、山の整備は基本的に冬場の仕事が多いため、これから年度末に向けて進捗は十分上がってくると思われま

- (増田委員) あと4ヶ月でやるのは大変だと思います。
- (加藤課長) 調整しながらやっていきたいと思います。
- (佐藤座長) 折角の事業計画ですから、出来るだけやっていかないと、予算が組まれているのに県民税がもったいないので、よろしくお願いします。
- (田村委員) 県単河畔林整備事業について、重機が入って整備しても、ニセアカシアが1年経つとまた同じような状態になり、それを繰り返しているのはすごくもったいないと思います。
- (佐藤座長) ニセアカシアは、河畔林でなくてもいろいろなところにあるので、うまく調整しながらお願いします。
- (高橋委員) みんなで支える里山整備事業で、市から依頼があり、現場を見て提案をさせていただいたところ、結局その現場は既に集約化されていて、森林経営計画が立てられ、結局その現場は出来ないことになってしまった。
その事業は市で地域指定されていたが、そのような情報が林業事業体にもあれば、もう少しやりやすいと思う。
- (佐藤座長) 市村には情報がいつているけれども、事業体への情報はいつていないのですか。
- (芳沢補佐) みんなで支える里山整備事業の減災・防災については、データをもとに市村と私共とで場所のピックアップをさせていただく中で、最終的に市村の方で林業事業体の皆さんと調整をする中で箇所決めして、個所が決まり公表しないと事業ができないことになっています。市村では林業事業体さんからの御意見を伺っているものと我々は思っていますが、意志疎通がうまくいつていないのかもしれない。
- 森林経営計画については、計画を立てた方に優先権が生じていますので、後から割込む・入り込むことはできないシステムになっています。
- (高橋委員) その辺を事前に分かることはできませんか。
- (芳沢補佐) 市村で認定をしているので、市村の方では分かっている筈なのですが。
- (佐藤座長) 市村で認定になったことを県では把握しているのですか。
- (芳沢補佐) 報告はいただいています、具体的にシステムで見える形にはなっていないので、どこで何が出来ているのかは市村の方で把握をしています。
- (佐藤座長) 市村とうまく調整してください。
- (赤羽委員) 台風第19号がもたらした爪痕はかなりすごくて、仮設住宅を100棟くらい今月の末に引き渡すということで、長野県の県産材がたくさん使われたが、これはいくらか森林税と関わりがあるのですか。
- (芳沢補佐) 県の木造協が主体になって、110棟のうち50数棟を木造で建てさせてもらうということで、御提案されたようなので、直接森林税は関わっていません。
- (佐藤座長) 県産材を大いに利用してもらうのは良いこと。
- (赤羽委員) 緊急に必要としているところで使ってもらうことは良いことではないか。
- (佐藤座長) 県で考えてやっていただきたい。
- (赤羽委員) プレハブでなく、木造で仮設住宅を造るのは長野県でたぶん初めての試みではないか。
すごくいいことだと思います。
- (加藤課長) 御意見があったということを県に報告したいと思います。
- (佐藤座長) 今後も災害は関わってくるものと思いますので、よろしくお願いします。
- (太田委員) みんなで支える森林づくり推進事業で、広報活動ということで、森のフェスティバル、木育フェスティバルのイベント等を開催した際、林務課の皆さんには広報活動にだいぶ御協力をいただきましてありがとうございます。今年初めてということで、作られたシールとパンフレットをいただき、マイ箸作りと

一緒にシールとパンフレットを参加者に配らせていただいたのですが、パネル展示はさせていただきますが、シールやパンフレットの説明までは手が回りませんでした。

もし、来年もシールを作る予算がつくのであれば、小さな子供さんもいらっしやるイベントなので、シールを利用させていただければと思います。

マイ箸作りに関しては、実行委員の皆さんも9年目を迎え、マイ箸作りの講師ができるようになっていきます。その方々と林務課の皆さんで、たぶん昼休みを返上してやっていただきありがとうございます。

(清沢委員) 学校の先生方の森林に対する意識が低いようで、もっと学校の先生たちに理解をしていただかないと進まないと感じたことがありました。

地消地産による木の香る暮らしづくり事業で、カラマツでいろいろなものを作っているのですが、木工工作コンクール応募者数について、資料には2022年度で5,500人と目標が記載されているが、この数字を目標に毎年毎年やられているのでしょうか。

県産材を使っているものの評価をどこかでやられているのでしょうか。

(芳沢補佐) 木工工作コンクールにつきましては、長野県木材青壮年団体連合会が全県規模でやっています、子供さんたちが夏休みに木工工作をしたものについて、コンクールとして、松本の会場で審査会をして、順位を決めています。

今年については、11月に信州バザールで展示をしながら、皆さんに見ていただいています。

作品については、子供さんが木片を使ったり、ありのままの木を使って、いろいろなことを考えて作っていただいています。

(佐藤座長) 学校の机を木材で作ると、棘が刺さり怪我をするから止めようという話があったと思いますが、その後、どうなりましたか。

(芳沢補佐) リニューアル事業は一昨年までやっていましたが、去年と今年はやっていません。

(佐藤座長) 木材の机を使う方針に変わりはないのですか。

(芳沢補佐) 使っていただければありがたいと思います。

朝日村では昨年、木の机・椅子を導入していただいています。

(佐藤座長) 松本市はどうなりましたか。

(芳沢補佐) リニューアル事業ということで、希望を取って、リニューアルされたところはお使いいただいています、その他の所はやはり使っていないということだと思います。

その後どうなっているかは観察しなければわかりません。

(清沢委員) 2～3年毎に手を入れないと、ささくれて怪我をするお子さんがいて苦労しています。

(2) 令和2年度森林税活用事業の実績について

(増田委員) 令和2年度の事業について、ほとんどの事業が継続の形であるため、来年は是非、早めの事業着手をお願いします。

(加藤課長) わかりました。

(田村委員) 松くい虫の枯損木利活用事業で、波田の施設にチップボイラーが導入され、今度は安曇野市で検討されていますけれど、こういうチップを作る場所について、民間の施設で構わないのですが、今後作られる予定はあるのでしょうか。

(加藤課長) 特に事業の中では無いと思われませんが、実際に計画が具体的にあったところで、相談しながらやっていきたいと思っています。

(佐藤座長) チップ化はどこで行われているのですか。

(芳沢補佐) チップ化については、松本平木質エネルギーと言う会社が本年設立され、そこでチップパーをもっています。

そこで波田の温泉施設とかいろいろなところで、チップボイラーが導入され

たところにチップを納入していく計画がなされています。

チップボイラーについては、ウッドパワーと異なり、F I Tの対象にする必要がないため、普通に山にある木をチップに出来ます。

(佐藤座長) 波田の温泉施設には松本市が森林組合にもっていくのですか。

(増田委員) 森林組合だけでなく、4～5社。

市でも燃料の供給が不安定だと困るため、幾つかの事業体を集め、松本平木質エネルギーという会社を作り、安定的な供給を図っています。

(佐藤座長) 大型のものですか。

(芳沢補佐) チッパー自体はそんなに大きくありません。

(増田委員) 1年間に使う量も僅かで、160トンくらいで出荷しても勘定になりません。

チッパーを持ってやっていくとなると規模によりますけれど、2,000トンないと利益があがりません。

(佐藤座長) 波田の温泉施設しかないわけですか。

(芳沢補佐) 今の所チップボイラーが入っているのはそこだけです。

松本市で、あと2箇所程度、チップボイラーを入れる計画もあります。

他の市村でもチップボイラーになるかわからないけれども、木質ボイラーを入れる計画がある様子です。

(高橋委員) アカマツの枯損木の現場で、実際に枝とかを山の中でチップにして活用することは難しいのですか。

(佐藤座長) 昔、持ち運びのできるチップ化の機械がありました。

(芳沢補佐) 機械は古くなり売られてしまいました。

松くい虫の枯損木の処理方法については、来年10月にはウッドパワーが本格稼働するため、14万トン位のチップが必要になってきます。しかし、ウッドパワーで燃やすのはF I Tで、再生エネルギーとして認められている木材しか使えません。

(赤羽委員) ウッドパークでバイオマスエネルギーをやることは、木材の需要に関してはすごく力になるし、カラマツも台風の影響でベニヤがない状態で、フル生産ということで、原木をベニヤの生産にもっていくが、供給が間に合わないのではないかと心配しています。

アカマツの被害木も伐った後に何を植えるかこれからの課題の一つ。

(佐藤座長) その辺も県でよく打合せをしながらお願いします。

(太田委員) 木を伐る作業を、子供たちが見る機会がなかなかないため、そういう機会があるときに、なぜ木を伐るのか今後どうやっていくのかということ伝える機会として、イベントとかに繋げていけたら良いと思います。

(佐藤座長) 学校林が無くても、子供さんたちに山の手入れを見せてやるのも一つの手だと思います。

(清沢委員) 里山資源利活用推進事業について、朝日村でも検討したが、難しい面がありました。

里山整備利用推進協議会が備品の購入に充てていて、この事業については地域の方が関わって、やっといこうという事業が対象であって、新規の参入は難しいということですか。

(芳沢補佐) 里山整備利用地域活動推進事業と里山資源利活用推進事業は二本立てになっていて、里山整備利用地域の認定を受ける必要があります。その認定を受けるためには、協議会を設立する必要があります。協議会には地域の人や事業者の人等がいろいろと参画して、里山をみんなでどのように整備していこうかと言う計画を作り、里山整備利用地域活動推進事業として整備をすることもあるし、里山資源利活用推進事業として備品を買ったり、資材を買ったりすることがあります。